
令和3年大和町議会3月定例会議会議録

令和3年3月3日（水曜日）

応招議員（18名）

1番	宍戸一博君	10番	渡辺良雄君
2番	児玉金兵衛君	11番	千坂裕春君
3番	佐々木久夫君	12番	門間浩宇君
4番	佐藤昇一君	13番	藤巻博史君
5番	今野信一君	14番	堀籠日出子君
6番	犬飼克子君	15番	馬場久雄君
7番	馬場良勝君	16番	大須賀啓君
8番	千坂博行君	17番	槻田雅之君
9番	今野善行君	18番	高平聡雄君

出席議員（17名）

1番	宍戸一博君	10番	渡辺良雄君
2番	児玉金兵衛君	11番	千坂裕春君
3番	佐々木久夫君	12番	門間浩宇君
4番	佐藤昇一君	14番	堀籠日出子君
5番	今野信一君	15番	馬場久雄君
6番	犬飼克子君	16番	大須賀啓君
7番	馬場良勝君	17番	槻田雅之君
8番	千坂博行君	18番	高平聡雄君
9番	今野善行君		

欠席議員（1名）

13番	藤巻博史君		
-----	-------	--	--

説明のため出席した者の職氏名

町長	浅野元君	まちづくり 政策課長	千葉正義君
副町長	浅野喜高君	財政課長	菊地康弘君
教育長	上野忠弘君	税務課長	千葉喜一君
代表監査委員	櫻井貴子君	都市建設課 課長	江本篤夫君
総務課長	千坂俊範君	上下水道課長	蜂谷俊一君

事務局出席者

議会事務局長	櫻井修一	主任	渡邊直人
主事	浅野真琴		

議事日程〔別紙〕

本日の会議に付した事件〔日程と同じ〕

午前10時00分 開 議

議 長 (高平聡雄君)

皆さん、おはようございます。

本会議を再開します。

昨日の説明で、上下水道課長より報告があるそうですので、発言を許可します。上下水道課長蜂谷俊一君。

上下水道課長 (蜂谷俊一君)

おはようございます。よろしくお願ひします。お時間をいただき、ありがとうございます。

昨日、午後の本会議中に説明させていただきました令和3年度大和町水道事業会計予算説明について訂正し、改めて説明申し上げます。

訂正箇所については、予算に関する説明書258ページになります。

令和3年度大和町水道事業会計予算第2条の業務の予定量についてであります。

(1)の給水戸数について、前年度当初予算及び本年度実績見込みにより、微増の1万1,696戸と説明させていただきました。前年度当初予算時の給水戸数については、1万1,712戸でありまして、差し引きますと16戸の減であり、微減となるものでございます。訂正し、おわび申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

議 長 (高平聡雄君)

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1「会議録署名議員の指名」

議 長 (高平聡雄君)

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、14番堀籠日出子さん、15番馬場久雄君を指名します。

日程第2「一般質問」

議 長 (高平聡雄君)

日程第2、一般質問を行います。

順番に発言を許します。

2番児玉金兵衛君。

2 番 (児玉金兵衛君)

おはようございます。この町でよかったと喜び合えるように、私も全身全霊、心を込めて、通告のとおり、1件の一般質問を開始いたします。

まほろばまちづくり総合研究所の再開を。

人口減少社会における移住・交流施策の新たな潮流として、総務省は、ハードルの高い「定住人口」や一過性の「交流人口」でもない、地域や地域住民に思いを寄せ、多様に関わる人々を意味する「関係人口」を増やす継続的な仕組みづくりの重要性を上げています。

本町において、令和元年度に実施された「まほろばまちづくり総合研究所」、以下、まま総研は、まさに「移住と“関係する人”を増やそう！」との研究テーマでありました。そこには町内外より、黒川高校の生徒や教員、宮城大学の学生や教授、子育て世代の母親、若手役場職員、起業家、地域づくりの実践者など24人の多様な人材（研究員）が集い、全5回のワークショップを経て、地域課題解決と関係人口の拡大に向けた研究成果が発表されました。まま総研は、豊かな地域コミュニティを受け継ぐ担い手の掘り起こしと、そこに思いを寄せる多様な人々へ“関わりしろ”を提供するプラットフォーム（受皿）として、これからの協働のまちづくりに継続して必要な人と人との“結び場”であります。そこで、以下、町長のお考えを伺います。

1 要旨。研究員らが、現在実践している活動を含めて、その成果をどのように評価されていますか。

2 要旨。研究所の継続へ多くの期待が寄せられましたが、単年度で終了となってしまった理由は何でしょうか。

3 要旨目。研究で学んだダイアログ、これは対話の手法です、を生かして、関わりを求める人と人とを垣根なく結び、来るべき再開に備えております。今こそ、私たちの“よりどころ”まま総研の再開を。

以上です。

議 長 (高平聡雄君)

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

おはようございます。今日もよろしく申し上げます。

それでは、ただいまの児玉議員さんのご質問でございましたまま総研の再開をということございます。

まほろばまちづくり総合研究所の実施に至る経緯といたしましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度に当たりまして、その改定を行うに当たって、関係人口や移住定住、まちづくりや町の未来を描くといったものをワークショップによりまして、皆さんで考えていただくということで、開催をいたしたものであります。開催に当たって、このワークショップから得るものとしまして、次の3点を考えたものであります。

1つ目が、まちづくりをしてみたい住民を増加させるというもので、協働のまちづくりを推進する。自らが、主体となって行動する住民を増やし、まちづくりに参加する体験を通じて、自身のフィールドにおいても新たな取組や活躍に役立てることと、まちづくりに関心のある方が集まり、新たな仲間を見つけ、増やすことで、それぞれの活動でのネットワークが創設されることであります。

2点目が、まちづくりに対して理解ある関係人口として、町のよいところ、残念なところを知り、大和町に対して積極的に関わりを持った住民を増やし、町のよいところを伸ばしていく関係人口を増加させ、今後の事業にも継続し、協力してもらえる理解者を増やしていこうというものです。

3点目が、まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定において、地域バランスの取れた施策の展開などに役立てようとするものでした。

ワークショップの開催方法も堅苦しいものとせず、アイスブレイクなどを入れたカフェスタイルとし、略称をまま総研として、子育て世代も意識したものとしたところでございます。ワークショップは、全5回の開催となり、中間では、よそのまちを見てみようとし、丸森町の先進事例を見ることとしておりましたが、台風の災害によりまして、町内のフィールドワークに切り替えたところであります。

初めに、1要旨目の研究員の実践活動等に対する評価のご質問でございます。

まま総研の最終回のワークショップでは、各グループで話し合った自分たちで解決できる課題や生かせる、伸ばせる魅力が発表され、そのプロジェクトの一つとして、まほろばまちカフェが、研究会終了後、間もなく開設され、現在でも実践されており

ます。また、カフェに集う方々が、特派員として様々な町の情報をフェイスブックに投稿していただいております、新たな仲間を見つけ、ネットワークが創設されていることに感謝をし、自らが主体となって行動していただけるものと期待するところでございます。

次に、2要旨目の単年度で終了した理由のご質問でございますが、決して終了したものではないと考えております。結果として、研究所という形では開催できませんでしたが、今年度は、第5次総合計画の策定に当たり、懇談会を組織し、多様な世代や関係人口、ままた総研のメンバーなどの参画したワークショップを開催し、町の強み、弱み、将来などの意見をいただいております。

最後に、ままた総研の再開をとのことでございますが、移住者の方や関係人口を増やすということは、これからの大和町の地域振興においても必要なことであり、今後において、地域活動のリーダーとなっていただける人材の育成など、ままた総研と同じ内容ではないかもしれませんが、新たな住民参加のワークショップの開催を考えています。

なお、令和元年度のままた総研研究員の方々は、既に実践されている方もございますので、自らが主体となって行動する住民になり得る存在になっていただいております、これらの活動をさらに発展できるような部分でお手伝いできればと、このように考えております。

以上です。

議長 (高平聡雄君)

児玉金兵衛君。

2番 (児玉金兵衛君)

それでは、再質問に入ります。

再質問に入る前に、関係人口、一過性の交流人口と先ほど申しましたけれども、いわゆる観光人口とか、来町人口とか、イベントに何人参加したとか、例えば、この前、吉岡宿本陣案内所、1月に4万人を達成しましたけれども、町を訪れた方が何人で、量的なデータ、なかなか最終的には、経済効果に落とされるような、そういう一過性の、あまり地元にとっては実感性のない数字、それから、移住定住人口、なかなか大和町に引っ越してくる、そこ住むということは勇気が要ることだと思いますけれども、なかなか施策として実効性にハードルの高い移住定住人口、その中間というか、それ

とはまた別なカテゴリーで2018年ぐらいから総務省で関係人口という言葉が生まれております。まま総研の最初のテーマもまさに関係する人を増やそうということでございました。町長、関係人口という言葉にどのようなイメージを持たれていますか。

議 長 （高平聡雄君）

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

関係人口のイメージということでございますけれども、おっしゃるとおり、定住人口、交流人口という言葉もございました。定住につきましては、そのとおり、住んでいただくということ。交流につきましては、観光的な部分ですかね。そういうことで訪れていただいて、いいところを見ていただく、そういうことはありますけれども、地域との関わりというのは、なかなか密なものではないといえますか、そういう方々ということ。そういうことで、中間地と言ったらちょっと語弊があるかもしれませんが、物の本によりますと、観光以上、定住未満といえますか、その中間というような定義といえますか、そういうこともあると見ております。

そういうことで、イメージというか、そういうことにつきましては、いろいろお持ちになるかもしれませんが、町に、好きになってもらっているということもありましょうし、興味を持っていただいているということもありましょうし、また、町を好きになりたい、興味を持ちたいという部分もある方々、そういった方々も入ると思います。町に興味を持ってもらうという言い方でちょっといいのかどうかはあれですけれども、大和町のことを知りたい、勉強したい、好きになりたい、もしくは、もっといい町にするお手伝いをしたい、そういったいろんなイメージといえますか、考えを持った方々、そういった方々が、そういう交流人口といえますか、ということで、これからはそういった人たちの協力もいただきながら、いろんな外部からの移転とか、そういったものを入れながら、町としてもまちづくりの幅を広げていくといえますか、イメージを大きくしていくといえますか、意見を、そういったものを取り入れながらまちづくりをしていくためのそういった大事な方といえますか、協力いただければ大変ありがたいかなと思っております。

議 長 （高平聡雄君）

児玉金兵衛君。

2 番 (児玉金兵衛君)

まさにそのとおりであります。人口減少、それから、高齢化が進む日本において、やはり全体的に人材も含めて様々な地域資源が縮小していく中で、例えば、こちらの自治体からこちらの自治体に、我が自治体に移ってもらうと、大和町は人口が増えるかもしれませんが、移ってこられた先の自治体は減るわけです。そういうふうにとんどんキャパが狭くなって、少なくなっていく中で、決して自治体同士が対立して奪い合うような状況というのは、このコロナ禍も含めて、これから先がなかなか見通せない時代において、対立、競争というよりは、お互い豊かに関係し合っているものを伸ばしていくと。住んでいる方々も自分のホームタウンではないけれども、もう一つ、2つ、何個あってもいいんです。自分の好きなまち、好きな地域に思いを寄せて、交流できる、これが最終的には深い関係となって、最後は移住に結びつく可能性もあると。そういう様々な関係することによる可能性で、お互い自治体同士助け合う、そういう発想だと思います。

まま総研のこのコンセプト、最初に要旨の説明をいただく前におっしゃったんですけれども、3つありまして、まちづくりをしてみたい住民を増加させる。それから、2つ目が、まちづくりの理解者を増やす。そして、3つ目が、まちづくりに興味があって、理解してくれた方々のアイデアをきめ細かく、各地域にバランスよく施策として生かす、とてもすばらしいまま総研のコンセプトだと思います。こんなすばらしいまま総研、いつも手元に、いつも耳を貸していただく、そばに置いておきたいと思われませんか。なくしてしまっただけ残念ではありませんか。

議 長 (高平聡雄君)

浅野 元君。

町 長 (浅野 元君)

まま総研につきましては、先ほど申し上げたような、今議員さんもおっしゃったような3つのコンセプトといたしますか、でスタートしておるところでございます。この結果といたしますか、効果といたしますか、これについては、非常にすばしかったと私も思っております。こういう言い方がいいのかどうか、思った以上に多くの方々に参加してもらって、一生懸命取り組んでいただいて、そして、継続していただいているというので、非常にありがたく思っておりますし、非常にいい経験だったと思ってお

ります。

そういった意味では、もったいないといえれば当然もったいないと、当然といえますか、あれですが、ママ総研をやったのが、先ほど言いましたまち・ひと・しごと総合戦略の形のものでスタートしておるものですから、そのものについて、ママ総研というものについては、そういったスタートでやって、1年間で皆さんからいろいろご検討いただいたということです。

先ほど述べましたこういったものについては、大変関係人口とかですか、そういったことについてもいいことですし、まちづくりにも大変意義のある組織といえますか、そういった活動であったとっておりますので、先ほども申し上げましたけれども、こういったものについて、今のままの形がいいのか、その辺は、いろいろ考えなければならぬですけれども、こういった活動といえますか、こういったものは、大事にしていかなければいけないとっております。

議長 (高平聡雄君)

児玉金兵衛君。

2番 (児玉金兵衛君)

それでは、1要旨目の再質問に入ります。

現在、研究員の皆さんが実践している活動について、いろいろ、1つは、ママカフェですね。まほろばまちづくりカフェ。実際集って気軽にお茶を飲みながら、まちづくりの意見交換をする。これはママ総研の研究員だけではなく、そのまた友達や関係する人を連れてきて、少しずつ浸透しているのかなと思いますけれども、残念ながら今コロナ禍の状況で、なかなか先に進めることができずに、ちょっとまだコロナ禍の状況が明けるのを、コロナ明けを今待っているところですが、もう一つ、フェイスブックで情報発信するまほろばまちカフェの案内板というんですかね。フェイスブックで地域情報、お題を上げまして、みんなでそれを共同で取材しまして、それこそ大和町の各地区の四季折々の風景を詳細なレポートとともにフェイスブックに情報としてアップしております。

そのほかにもまちづくり総合研究所の研究員たちは、様々な活動を展開しております。例えば、私もその研究員の1期生なんですけれども、この議事堂にいらっしゃる宍戸議員、それから、佐藤昇一議員も3人で1期目のママ総研を受けたメンバーでございます。ママ総研の三羽がらすと私たち、言いたいんですけれども、まちづくり

の気持ちが熱い分、3人は議員になりました。そういう研究員たちが、心に熱いものを持ってやっぱり集まって、かんかんがくがくこの町をよくしようということで、みんな話合った記憶がございます。

ところで、ままカフェ、まほろばまちカフェ、それから、まちカフェの案内板、現在活動している研究員たちの行動、この一般通告を出す時点まで把握されていなかったか。なかなか、今どうなっているんだろうとお調べになったのではないですか。どうでしょう。把握できていましたか。

議 長 （高平聡雄君）

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

把握というあれですので、活動されているのは、存じておりました。定期的にといますか、皆さん、お集まりになって、意見の交換をされている等々も、参加しているわけではございませんが、聞いております。ただ、おっしゃるとおり、コロナの中でそういったこともなかなか難しいといいますが、集まってというのが困難がある。そういった中ではありますが、フェイスブック等にアップというんですか、そういったものを私もちよっと見させてもらっておりましたので、そういった活動をやっているという点については、私なりには、活動は認知していたと、分かっていたところがございます。

議 長 （高平聡雄君）

児玉金兵衛君。

2 番 （児玉金兵衛君）

支援の仕方は、様々だと思いますけれども、まま総研に参加されて、その後、その志を少しでも前に進めようと思って活動されている皆さんにとって、たとえまま総研は、単年度で終わったとしても、その後、やっぱり町長はじめ役場の方々に支援してもらおうというか、見守ってもらおうというか、常に自分たちと一緒に伴走していただいているなという、そういう一体感みたいなものが、多分活動の推進力というか、安心材料になると思います。なので、こういうコロナ禍の状況もありますし、なかなかそう簡単に再開はできないかもしれませんが、ぜひそういう安心感とか、支援と

か、そういうのは、日々のコミュニケーションの中で研究員の皆さんと触れ合う機会
は、設けていただきたいなと思います。

2要旨目に入ります。

力強いコメントをいただきました。決して終了したものではないということござ
います。そして、これから地域の住民の方々を対象とした多様な世代、関係人口を基
礎としたワークショップを展開されるという言葉をいただきました。

ここで一つ、やっぱり私、思うのは、様々な多様なワークショップが展開するとい
うことはいいんですけども、やっぱりワークショップを企画して展開する行政側と、
それから、それを受け止めてそこに参加していく住民と、やはりどこか協働というよ
りは、その一回一回のワークショップがばらばらで、与えるほうと受け手のほう、一
方通行なような気がするんですね。どこか我が町に全てのどんなことが起ころうとも、
ワークショップが開かれようとも常に動いている組織、何かすぐ対応できる、できる
だけ若いメンバーの組織というのが常にあるということが、いろんな施策を打つとき
の大和町の強みになるのではないかと思うわけです。まま総研でなくてもいいので、
地域の若者を集めてしっかり地域活動に参加できるような、常に伴走して、常に参加
できるような間口、そういう組織というのをつくっていただきたいなと思いますけれ
ども、いかがでしょうか。

議 長 (高平聡雄君)
浅野 元君。

町 長 (浅野 元君)

そういった組織ということで、そういったものが非常に有効といたしますか、あると
思います。今お話でそういった組織をつくってというとなると急にあれなのですけれ
ども、そういった組織といたしますか、若い人たちの意見も聞く場という言い方にな
るとまた一方通行になるんだと思いますし、交換の場とさえいいんでしょうかね。そ
ういった場というのは、やっぱり必要だと思っております、若い人に限らずなんです
けれども。特に今、若い人が増えてきておりますので、そういった関係の場がある
ということは、我々としても非常にうれしいとも思っております。

どういった形でやればいいのかということになりますと、また町からという形にな
って、一方的になっていきますので、例えば、先ほどやっていただきましたまま総研
の方々にそういった提案をしてもらおうとか、そういった中でお互いの、今おっしゃっ

たとおり、一方通行ではない交互通行といいますか、そういう形にするためには、町からということもありますし、皆さんからといいますか、そういった総研とか、今やっておられる方とか、そういった方々からもご提言をいただきながら、こういったものがいいのではないかとか、そういったことの立ち上げといいますか、それが全てできるかどうか分かりませんが、そういった場からの意見交換といいますか、そういったこともあると非常に楽しいという言い方をしたらちょっとまずいのかもかもしれませんが、有効なそういった組織もできてくるのかなと今ちょっと感じたところでございます。今後もそういったことについてもちょっと今具体的に思いがないので、ちょっと中途半端な話になりましたけれども、そんな思いはございます。ただ、皆さんからのご意見もいただきながら、町からだけではなくて、そういったそちらからの住民の方といいますか、若い人からの意見もいただきながらの事業といいますか、組織といいますか、そういったのをつくり上げるというのもこれは非常に大切なことだとは思っています。

議長 （高平聡雄君）

児玉金兵衛君。

2 番 （児玉金兵衛君）

本当に多様な方々がまま総研に参加して、ちょっと私、そろそろ議員になって1年経過するんですけども、一番最初の質問で、役場の若手職員について質問したことを思い出しております。

まま総研も住民だけではなく、役場から若い職員さんたちが何人も参加した記憶がございます。その職員さんたちは、多分これはもう勤務外だと思いますけれども、まちカフェやまちカフェの案内板に情報提供して、やっぱり町民と一緒に地域を盛り上げようと今一生懸命活動されております。あとはもっと若い黒川高校の生徒とか、あとは宮城大学の学生とか、やっぱりこれから地域探求というか、地域と関わって、地域から情報をしっかり得る方法、それから、そこから地域課題を見つけ出して、地域に提案して、一緒に解決する、地域に活力を与える、そういう若い世代の学生たちもこれからどんどんそういう地域に飛び出す手法をもう学ぶ時代になっていくと思います。さらに、子育て世代の母親たち、今回の研究員にもいらっしゃいましたけれども、やっぱり一番暮らしに身近な真剣なまなざしと、それから、意見をたくさんいただきまして、特にこういう機会であればまちづくりに参加することなんて全

く考えられなかったと勇気を持って参加されたされたお母さんもいらっしゃいました、非常に感動的に、最後、成果発表に対して感動的なコメントをたくさんいただきました。あとは、もう地元起業された、町外からいらっしゃって地域に根づいて、そこで起業しながら地元の地域おこしを先導している起業家の方ももう既にいらっしゃいます。

なので、1回しかなかったんですけれども、まま総研の効果というのは、すごく大きなこれから芽を出す可能性があったんだと今改めて感じております。それはもちろんこの大和町という町が、どこの自治体に比較しても可能性に富んで潜在能力がある、そういう文化資源に満ちたすばらしい町だからだと改めて思いました。

3要旨目に移ります。

よりどころとか、プラットフォームとか、受皿と通告に書かせていただいたんですけれども、私が組織にこだわるのは、いわゆる関係人口をこの町に受け入れるとき、大きく分けると2つあると思いますけれども、例えば、3大首都圏からUターン、Iターン、Jターンで人を招くときに、そこにいきなり来て、いきなり何か考えてくださいではなくて、受皿があって、必ずそこでワンクッションしっかり落ち着いて考えることができる場というのは、必ず必要だと思っております。そして、もう一つが、逆に今度、町内から潜在的な住民の皆さんの力を引き出すときの受皿、2つの大事な役割が本当はあるんだと思います。それを行政主導ではなく、町民が行政にしっかり伴走して支えられて、そういう場を内に設けるといことが、これからの官民協働のまちづくりにもっとも大切なことなんじゃないかなと思います。

よりどころ、それから、プラットフォーム、それから、受皿、こういうキーワードを申しましたけれども、いろんなワークショップが展開するのはいいんですけれども、まま総研に限らず、そういう地域の受皿、いつでもどんな問題でも地域課題でもすぐ考えて、動ける、そういう仲間の集まり、そういうのが本当は必要なのではないかなと思います。

最後に町長、本当は私、まま総研がまた復活して、研究員がまず24名なんですけれども、それが100名、200名とまちづくりの研究員が増えていくのが、私、理想なんですけれども、いかがでしょう。もう一回ちょっとご意見をお聞かせください。

議 長 （高平聡雄君）

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

まま総研というのにつきましては、先ほども言いましたけれども、単年度といいですか、まち・ひと・しごとのあれでやったということで、先ほど申し上げたところです。そういった活動といいですか、そういった継続するということは、非常にいいことだと思っておりますので、前回のやり方でいいところは当然継承しながらということになると思いますが、そういった集うといいですか、仲間と集うということ、そういったことで意見の交換といいですか、意見を出し合うといいですか、そういった場をつくるというか、それは大切なことだと思います。

繰り返しになるんですけども、行政でやってしまうやり方と行政が後ろで伴走してお話がありましたけれども、そういった形で共に走るという、あるいは、行政が表に出ないでバックアップといいですか、そういった形でやるというか、そのほうがいいということもあろうかと思っておりますので、そのやり方については、いろいろ研究しなければならないと思っておりますけれども、基本的に皆さんが集って意見を出し合うような場、そういったものがあればいいということは、私もそのとおりだと思います。そのやり方、方法については、それこそまま総研の方とか、議員さん方とか、そういった方々のご意見もいただきながら、どういったことをやったら集まりやすく意見を出しやすく、そして、継続的にできていくのか、そういったことも考えながら、そういった組織について、いろいろご意見をいただきながら考えてまいりたいと思っております。今、これでやりますという、こうやりますという言い方ではないのですが、そういった大切さというのは、十分認識しておりますので、そういったことについて、今後議員さんはじめ皆さん方と意見の交換をしながらやれるように、そういった場といいですか、組織というとあまりあれになってしまうので、場とか、そういったものについて意見を交換しながら、そういった場づくりにいろいろ取り組んでまいりたいと思っております。

議 長 （高平聡雄君）

児玉金兵衛君。

2 番 （児玉金兵衛君）

最後に、参考に、大和町を取り巻く環境の中で協働すべき自治体というか、手本にすべきというか、一緒にぜひ連携すべき自治体を私、2つ挙げさせてもらいます。富谷市と利府町です。大和町も含めてこの人口減少社会の中で、非常に恵まれた数字を

出している自治体たちだと思いますけれども、その数字だけではなく、まちづくりの中身について、富谷市と利府町は、非常に今時代の潮流をつかんで、特に若い力の掘り起こしに躍起となっています。

富谷市においては、富谷の同じ吉岡の宿場町につながるしんまちという宿場町があるんですけども、そこに旧富谷町役場を改修した産業交流プラザTOMI+というのがございまして、その中に令和2年度で3年目、3期目になるんですけども、富谷塾という組織がございまして、3期目で250名ということでございまして。これは単年度ごと、年度当初に、例えば、ワークショップ形式で人員を募集して名簿を作ってスタートということなんですけれども、365日常に参加者を募っておりまして、関係人口が関係人口を呼んで、もう1年間でそれこそ100人近い増加を示しております。

もう一つ、利府町に関しては、それこそ、まち・ひと・しごと創造ステーション *tsumiki* という施設が在来線の駅前にございます。そこでは、生業塾という塾がやはりございまして、*tsumiki* が出来上がってから立ち上がった塾なんですけれども、今年で4年目になります。4年目で約50名の塾生がいます。これは単年度で塾生がそれぞれ違うんですけども、地域のなりわいを一生懸命担っていらっしゃる方々たちを講師にして、新しく商いを始めたいという志のある人たちを集めて、地域おこしも絡めた塾を展開しております。なので、人数こそ少ないんですけども、その効果というか、地域に対する波及効果は非常に大きな、今の時代にマッチした平仄の合った塾なのかなと思っております。

その2つの塾、最初の関係人口の話に戻りますけれども、富谷塾に関しても生業塾に関しても、言ってしまうと大和町民もそこに参加することができるわけなんです。そして、富谷市、それから、利府町に行って、一緒にイベントを展開したり、例えば、今マルシェとかがはやっているんですけども、そこに参加して出店して商うということも可能なわけなんです。逆に我が町に同じような受皿があると、今度はお互い関係し合って、その250名からなる富谷塾生と、それから、50名いる生業塾の塾生が交流しながら、逆にその力、それから、地域課題、それから、その強みとか、そういう全てのものを一緒に共有してまちづくりができるという、民間レベルの非常に調和の取れた、お互い課題を共有しながら地域を盛り上げていくという切磋琢磨ができるわけなんです。

本当に地域のすばらしさ、地域の課題というのは、どこの自治体もほぼ同じものだと思っております。そういう意味でも広域連携しながら、これからはもちろんしっかり施策を施して我が町をますます盛り上げていくということも大事ですけども、

同じように広域で連携して、それぞれ第二のふるさと、第三のふるさとと感じながら、お互い行き来しながら大いに交流して、まちづくりをさらに充実したものに広げていくということが大事なんだと思います。

町長、富谷塾とか、TOMI+とか、あと利府の t s u m i k i とか、生業塾とかをご存じでしたでしょうか。何かちょっと頭の中で考えていることがございましたら、お願いします。

議 長 （高平聡雄君）

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

富谷塾とか、そういったものについては、私もいろいろ聞いてございます。首長さんからばかりではなくて、そういった関係者の方からもいろいろ伺っておりまして、素晴らしい活動をやっておられると認識しております。それが全てそのとおりがいいのかどうかということは、いろいろ課題もあるようでございますけれども、そういったこともいろいろ参考にさせてもらいながら、今後、先ほど言いました町としてのそういったものについてもいろいろ勉強しながら、一緒に考えながら進めてまいりたいと思います。

議 長 （高平聡雄君）

児玉金兵衛君。

2 番 （児玉金兵衛君）

3 要旨目に書きましたダイアログという言葉は私、議員になってからすごく肝に銘じております。議会だよりもダイアログと打ってあります。対話の手法なんですけれども、相互理解を深め合う会話手法です。どちらが正しいか、どちらが間違っているかとかではなく、対話の中でお互いのいい部分を補い合って、自分の中から答えを見つけるというよりは、お互い協働して進むべき方向や答えを創り出していくという手法です。

議員活動をしながら、それから、私も様々な地域活動をこれからも続けながら議員活動1年、出会う方々、一生のお付き合いになる方々ばかりなんですけれども、ダイアログをしっかり肝に銘じて進めながら、よりよいまちづくりに私も一町民として町

長をわくわくさせながら、参加していきたいと思います。これで私の一般質問を終わります。

議長（高平聡雄君）

以上で、児玉金兵衛君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

再開は午前10時55分とします。

午前10時45分 休憩

午前10時55分 再開

議長（高平聡雄君）

再開します。

休憩前に引き続き、一般質問を行います。

次の発言者である13番藤巻博史君より欠席の届出があり、着席しておりません。よって、次の議員への一般質問に移ります。3番佐々木久夫君。

3番（佐々木久夫君）

では、通告に従いまして、一般質問をさせていただきたいと思います。

まず、私からは、2件ということでございます。まず、1件目でございます。建築物の維持管理についてでございます。建築施設の維持管理状況についてでございますけれども、一目で分かるような管理表などを当然作成していると思いますが、耐用年数など、修繕及び改修、改築、そして、復旧工事等は、計画をもって実施しているのか、次の点を伺います。

1 要旨目。老朽化防止に大きく影響することから、建築物の耐震調査による補強は、全施設完了しているのか。または、大幅に改修か修理をしているのか。

2 要旨目。建築物の各施設の電気・空調設備の管理状況は。

3 要旨目。躯体工事同様に設備等の附帯工事が的確に設計されているか。金額に左右されず、信頼できる事業を進めるべきではないかということでございます。

議長（高平聡雄君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

それでは、ただいまのご質問でございまして、初めに「老朽化防止に大きく影響することから、建築物の耐震調査による補強は、全施設完了しているか。または、大幅に改修か修理をしているか」のご質問にお答えをいたします。

平成29年4月に策定いたしました大和町公共施設等総合管理計画によりまして、学校教育、行政施設、町営住宅などの公共建築物と道路、公園、上下水道などのインフラ資産に分類をしまして、各施設の長寿命化計画の策定を進めております。

建築物の長寿命化計画につきましては、現地調査を行い、屋根、外壁、内装及び電気機械設備等の劣化度調査等を実施しまして、その施設の健全度によりまして、施設改修の位置、順位付けや今後の大規模改修時の概算費用の算定などを行っております。

本計画による耐震性能の確認方法といたしましては、新耐震基準、これは昭和56年7月以降、宮城県沖地震以降ということですね。で、建設された公共施設は、耐震性能が満たされていると判断し、また、旧耐震基準、これは昭和56年6月以前に建設された施設につきましては、耐震調査の有無を確認し、未実施や不明の施設は、施設改修設計業務の際に耐震調査を含めて実施することにしております。

なお、旧耐震基準で建築されました小中学校につきましては、既に全ての施設で耐震補強対策が完了いたしております。

次に、「建築施設の電気・空調設備の管理状況は」のご質問にお答えをいたします。

電気・空調設備の施設管理につきましては、法令に定められた定期点検等を専門業者に委託しており、指摘事項があれば早急な対応を行っております。また、日常点検は、窓口担当者が行っておりますほか、窓口担当者というのは、その施設の窓口という意味でございしますが、管理といたしますかね。行っておりますほか、施設利用者から寄せられたご意見によりまして、緊急性を確認しながら利用者が安全かつ快適に使用できるよう、設備の修繕、更新を行っております。

次に、「躯体工事同様に設備等の附帯工事が的確に設計されているか。金額に左右されず、信頼できる事業を進めるべきでは」のご質問にお答えいたします。

設計業者の選定につきましては、過去の事業実績や対応する技術者の有無などを確認し、一般競争入札、指名競争入札または随意契約により、契約相手方を決定いたしております。契約締結後は、受託者が担当課職員と打合せを行うこととなりますが、難易度の高い事業につきましては、技術職員を多く配置しております都市建設課に業務を依頼し、関係法令等を遵守した設計となるよう、指示いたしております。

なお、空調や給水管等の設備につきましては、経年劣化による改修や更新工事等により、目には見えない内壁の配線や配管の位置が変更され、建設当時の図面とは異なるケースもございますが、その際は、設計変更や契約変更などによりまして、今後も適切に対応してまいりたいと考えております。

以上です。

議 長 （高平聡雄君）

佐々木久夫君。

3 番 （佐々木久夫君）

今ほどは、答弁をいただきました。それで、再質問をさせていただきたいと思えます。

再質問は、私、この通告は3月12日にしてございます。そうしたら、次の日、13日11時8分、かなりの揺れの地震を感じました。福島県沖ということでございます。大和町は、この間報告がありました5弱で、マグニチュードが7.3ということでありましてけれども、最小限に一応収まっているようでありましてけれども、今見ますと電灯の枠が外れたり、そういうのが見受けられております。そういうのを考えますと、この間、東日本大震災からさらに地震の基準が決められているんじゃないかと。先ほど答弁いただきましたけれども、これは宮城県沖地震ということでございます。それからの基準見直しは、されているんでしょうかということが1つであります。

それと同時に、宮城県で64億円の損害ということでもありますけれども、当町では、分かればで構いませんけれども、幾らくらいの損害があったのか、ちょっとお聞きしたいなと思えます。

議 長 （高平聡雄君）

暫時休憩します。

午前11時05分 休 憩

午前11時06分 再 開

議 長 （高平聡雄君）

再開します。

答弁を求めます。浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

どうも大変失礼しました。

耐震基準ということでございますが、これにつきましては、橋梁は一部変わったということではありますが、建物については変わっていないと思いますが、なお確認をさせていただきたいと思います。

それから、被害額でございますが、今、場所については特定をしております。庁舎内につきましては500万円ぐらいということですが、全体の額については、今日まで集計ということでございますので、集計でき次第、ご報告させていただきたいと思っております。

議 長 （高平聡雄君）

佐々木久夫君。

3 番 （佐々木久夫君）

分かりました。

それで、何でもこういう質問をするかというのを、先ほど終わっているということもありましたので、質問させていただきますけれども、この耐用年数とか、老朽化は、これはある程度手を加えれば、町長のおっしゃるとおり、長寿化計画がされていると思いますけれども、これは全てについて、常にチェック体制を取れば何とか10年もつやつが15年もつかもかもしれません。そういうことをしっかりやっていただきたいということでございます。

次、2要旨目でございますが、給水配水の関係でございますけれども、この間私、2月の末と3月初め、たまたままほろばホールにお邪魔しました。それで、いろいろ席に座って非常に寒さを感じました。風が吹くんじゃないかと思ったほど寒かったんです。それで、まほろばホールの方に聞きましたら、スイッチは最高にしているんですかと、温度は最高にしているんですかと聞きましたら、最高にしていますというような話でした。当然、床のほうからもあったかいのが全然来ないということがありまして、これに対して、先ほど答弁の中に、常に管理している、チェックしているというような答弁をいただきました。果たして本当にしているのかどうか。

それと同時に、これも耐用年数は当然あると思っておりますけれども、こういうのを前の

年にはっきり言って分からなかったかどうかということなんですよね。今年は、外気温は非常に低いというのは分かります。しかしながら、ある程度の能力は想定できるんじゃないかなと。大和町の今までの温度、今まで住んでいて今年が多いというのは想定はつきませんけれども、ある程度の設計の段階でそういうのを想定して、能力のある暖房器具を設定するのが当然だと私は思います。そこら辺を今後考えていってもらえるかどうか。それと同時に床暖房も早く予算化してほしいということでございます。この点、2点について、ご回答をお願いします。

議長（高平聡雄君）
浅野 元君。

町長（浅野 元君）

設備につきましては、定期点検は当然毎年やっております。もともとの能力と申しますか、想定よりも温度が下がっているというものに対する対応ということでございましたけれども、それにつきましては、その当時の段階で何年かの状況を見て、それに見合ったものをつけているということではありますけれども、それ以上に下がってしまったということで、それが追いつかなかったということについては、どこまでそれを見ればいいのかという問題はあると思っております。ですから、最初に造る段階での想定と申しますか、それについて、基準の中でやっていると申しますけれども、それ以上のものをするかどうかというのは、費用の問題もございますし、その辺は考えなければならない部分もあると思っております。恒常的にそうなっている状況であれば、当然それは考えていかなければいけないと思っております。

それから、定期的にはやっておりますし、今、各施設の長寿命化計画を盛んにやっております。それで、今どんどん上がってきているところですが、今年度も予算にも計上しておりますが、まほろばも時期が経ってきております。それで、今年度予算化している部分もございまして、大型の更新と申しますか、そういったことが出てきている状況でありますので、なかなか一遍にはできないというのが現状でございます。ですから、長寿命化計画の中でもやっぱり優先度合いとか、そういったものを見ながらやっていかなければいけません、住民の方とか、お使いになる方々には、そういった迷惑がなるべくかからないようにいろいろ努力してまいりたいと思っております。

議長（高平聡雄君）

佐々木久夫君。

3 番 (佐々木久夫君)

何とか考えますという答弁だと思いますけれども、ここまほろばホールに関しては、私たち町民だけじゃなくて、町内外から来ます。こういうのが大和町で、大和町全体がこう見られるような気がします。そういうことを考えますと、早めに、金はかかると思いますけれども、直してしまえばまた20年、30年もつわけですから、早急にしていただきたいと思いますので、その点をよろしくお願いします。

先ほど、金額の話もさせていただきました。今、設計とかなんか全て何か大和町が安いように感じられております。果たしてちゃんとした設計をしているのかというのが、設備から含めて考えられるわけでございます。この間も東日本大震災で落ちたやつが、同じところがまた落ちている。果たしてそこのところをちゃんと直しているのかどうか。そこら辺も含めて今後、都市建設課が対応しているというような話でございまして、そこら辺はしっかりやっていただきたいと思います。

しっかりやるには、それなりの職員を配置しなければならないと思います。ぜひ職員の配置、高校を卒業して大学を出てもすぐというのはなかなか難しいと思います。かなり時間がかかると思います。そういうのであれば、いろんな方、設計業者を1か所だけではなく、こういう設計があるんじゃないかというお話もあると思いますので、ある程度いろんな方に指名をしてやっていただければ、もっともっといい、長持ちのできる建物になるんじゃないかと。特に公共物であります。民間と違いましていろんな人が出入りします。この間は、夜中の11時8分だからよかったですけれども、あれが日中、いろんな方が見えられていて、来ているときと職員が歩いているとき、だらんとするだけだと思いますけれども、万が一、落ちた場合のけがについては大変だろうと思いますので、ここら辺、万が一というのも当然庁舎内のそういう意味で保険というのにもかかっているんでしょうか。そこら辺、ちょっと聞きたいんですけども。

議長 (高平聡雄君)

町長浅野 元君。

町長 (浅野 元君)

今のご質問は、建物の保険ということでよろしいんでしょうか。これについては、保険は入っております。

議 長 （高平聡雄君）
佐々木久夫君。

3 番 （佐々木久夫君）
それと同時に、建物は当然入っていると思いますけれども、今度は歩行者、一般の町民というか、そういうときの弁償というのは、どういう形でやっているのでしょうか。万が一の場合ですね。

議 長 （高平聡雄君）
町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）
万が一があってはまずいんですけれども、そういった場合があった場合の対応できる保険にも入っております。

議 長 （高平聡雄君）
佐々木久夫君。

3 番 （佐々木久夫君）
分かりました。
それで、今後はいろんな長寿化の計画の中でいろいろお話しされると思いますけれども、施設が今後だんだんだんだん耐久化されて、壊して建て直すという計画もされております。ぜひ頑丈ないい建物、特に基礎に関しては厳密にやっていただければなと思います。ただ、基礎も支持力につけるのはいいんですけれども、横揺れに対しては非常に弱いわけです。そこら辺もよく考えてやっていただければなと思いますので、そこら辺をお願いしながら、建物に関して、建築の維持管理については、終わらせていただきます。
次に行って……。

議 長 （高平聡雄君）
どうぞ。

3 番 (佐々木久夫君)

では、次は、2件目でございます。

吉岡地区商業エリア活性化ということでございます。これについては、12月議会でも同僚議員がお伺いしていると思います。それで、私も同じく、あれから3か月経とうとしておりますので、質問させていただきたいと思います。

1 要旨目。商店街とは、多くの人が集まり、ショッピング・食事をして、楽しく過ごすところと考えますが、図書館機能を持つ多目的施設の建設は、活性化にどのようなつながるか。素案と建設地・完成の時期について、信憑性のある回答を求めます。

2 要旨目。吉岡中心商店街に昔のにぎわいを戻すためにどのようなまちづくりを行うのか。早急に地元住民及び商店主の皆さんから、まちづくりに対する意見を集約してほしい。特に後継者がいないとの話を聞くが、その対処法に加え、町長の吉岡中心商店街への思いと考えを聞きたいと思います。

3 要旨目。吉岡西部土地区画整理事業が、令和4年5月に市街化区域に編入を目指しているようですが、区画地内に中心商店街と連動する統合新商店街建設を計画して、町民の憩いの場と娯楽施設等を考える。そのためには、にぎわう都市計画が必要であり、民間の資本活用を考えてはどうですかということでございます。3つについて、よろしく願いいたします。

議 長 (高平聡雄君)

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 (浅野 元君)

それでは、吉岡地区商業エリア活性化に関するご質問にお答えいたします。

この質問につきましては、さき開催をいただきました全員協議会でご説明いたしましたにぎわい創出事業と関連しますので、重複する部分もございますが、ご了承願いたいと思います。

初めに、多目的施設の建設の活性化の関連についての質問でございます。

今回、町で考えておりますにぎわい創出事業は、吉岡地区におきましても住宅団地が形成され、市街地が南部に拡大しており、それに伴い、既成商店街のにぎわいも薄れている状況にもあります。図書館機能を備えた多目的な施設整備を行うことで、人と人が集える場、核として人の流れを生み出そうとするものです。人が集まることに

よりまして、商店、飲食店における消費も発生し、地域が活性していけるものと考えております。にぎわい創出事業におきましては、令和3年度におきまして調査検討を行い、施設整備の具体的事業内容、整備手法等をまとめ、基本構想計画につなげようとするものです。

次に、2要旨目の地元住民、商店主の方からの意見集約につきましては、基礎調査の中で、商店主の方を含めた地域住民や子育て世帯等を対象に約6,000件のアンケート調査を実施し、あわせてワークショップの開催に当たっては、そちらにも商店主の方々に参加してもらい、意見をいただくことを考えております。

また、後継者不足への対処につきましては、商店等の家業を継ぐということは、それぞれの事情があると思われませんが、現行行っております店舗取得改修促進事業を活用していただくことやサテライトオフィスの受皿の整備などにより、空き店舗をなくしていければと考えます。そして、吉岡中心商店街の思いとして、私も吉岡商店街で育った人間でありまして、昭和の時代には、吉岡に行ければ全ての用が足せておりました。理想としては、そういった商店街となってほしい、これは個人の思いでございますが、それに少しでも近づきたいという思いでございます。

次に、3要旨目について、お答えします。

吉岡西部土地区画整理事業を予定しております吉岡西部地区につきましては、大和町都市計画マスタープランにおきまして、自動車関連産業や高度電子機械産業を中心に本県のものづくり産業の拠点となる企業の集積を図る拠点型工業流通業務地と広域交通の利便性を生かしながら、拠点型工業流通業務地との連携の下、関連企業立地の受皿となる新たな工業流通業務地として位置づけしているところでございます。

吉岡西部地区の土地利用計画につきましては、区域の大部分を工業流通業務系の企業が立地可能となる土地利用主体既存市街地と隣接する縁辺部分は、同様の住宅地を配置する計画として、世話人や地権者の皆様に説明してご理解をいただきながら、令和4年5月の市街化区域編入に向け、調整を図っているところでございます。本年5月には、宮城県に対しまして、都市計画法に基づきます都市計画の案の内容について申出を行うこととしておりますことから、現在、世話人会や地権者の皆様にお示ししております事業計画により、手続を進めてまいる考えでございます。

次に、民間資本を活用し、区画整理事業地内に中心商店街と連携する統合新商店街や町民憩いの場としての娯楽施設等、にぎわう都市計画についてでございますが、吉岡西部地区と中心商店街との連携等による施設整備につきましては、既存商店街の住民皆様の商店街活性化に向けた機運の盛り上がり最も重要であると考え、来年度に

おきまして、地域の住民皆様のお声を伺い、今後の吉岡西部土地区画整理事業との連動について研究してまいりたいと、このように考えております。

以上です。

議長（高平聡雄君）

佐々木久夫君。

3番（佐々木久夫君）

今ほど回答いただきましたけれども、さらに伺いたいと思います。

まず、1つ目です。この間、議会が始まった当時、26日ですか。にぎわい創出事業について説明をいただきました。これも2月に私が出した後でこういう説明をいただいたので、なるほどなという感じでおります。

それで、前回令和2年7月にアンケート調査をしたということでございます。ここにこの間聞いたことによって、やっぱりカフェとか、食事どころ、娯楽施設というのが多くて、図書館は6位だったというアンケート調査でございます。これはアンケート調査をいろんな広い範囲で実施されていると思いますので、ここに地元の人の考えは、どうなのかというのは、私、一番に欲しかったんですね。というのは、この間も町を歩くとほとんどアパートがまた建てられているという感じを受けました。これについて、早めに計画を出さないとアパート通りの商店街になるんじゃないかと今心配してございます。

それで、早急に予算化をしまして、基礎調査を1から5まで早速やるという回答をいただいたので、若干安心をしましたがけれども、こういう調査をする前にぜひ地元、町長はじめ、あそこら辺、現在住んでいる方、そして、店をやっている方、その近辺、この人たちは、どのように町を考えて、町長の思いが果たして伝わるかどうか、ここら辺をはっきり聞いてほしいのが一番でございます。それがはっきりすれば、ある程度、アンケート調査してもどういうまちづくりになるかというのが分かるような気がします。町長も選挙公約で発しましてもう1年半が経つということで、こういう形でまとめが出てきたのではないかなと思います。そういうのを含めると、今後の経過に対して、地元の方々は、果たしてどのようなありがたみというか、果たしてにぎわっている商売につなぐ気があるのかどうか。これが一番の心配です。

それで、全体協議会で、にぎわいの創出事業を説明しましたら、多くの議員さんから質問がいっぱい出ました。皆さんも議員の方も一生懸命だなというのは知ってはい

たんですけれども、改めてこの思いがみんなにある、議員さんにあるということを町長、自覚というか、してほしいと思います。特に町長は6期目でありますので、自分の考え、意思を早めに出して、その方向に示していかないとまだまだ遅れる。はっきり言って10年ぐらい前にやっていたらうんとよかったかなと私の考えなんですけれども、そう思っています。

そういうことを含めながら、まちづくりを果たしてここできるとどうか。町長の思いができるかどうかというのを差し支えない範囲内で回答をいただければなと思います。これは1要旨目でございますけれども、こういう形で私もいろんな角度から言われておりますので、質問させていただいてございます。特に地元の人意見が、非常に直接「何だや。大和町、何やってんだ」というのが聞こえておりますので、そこら辺を早めにやっていたらなと思います。それで、町長に意見を聞きたいのは、町長の思い、ここに書かれておりますけれども、こんな思いじゃないんだよ、普通に戻るか、戻さないか。果たして戻るか不安な回答にも若干取られます。ここら辺をもう一度、町長の思いをここで強くはっきり言うていただければありがたいなと思います。どうでしょうか。

議 長 （高平聡雄君）

佐々木久夫議員に確認します。

町長への思いということであると、要旨2番目ということの質問でよろしいのでしょうか。

3 番 （佐々木久夫君）

はい。

議 長 （高平聡雄君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

商店街の活性化といいますか、商店街というものになりますけれども、大和町の活性化ということになっていくと思っております。やはり中心部という形の中で、活性化をすることで大和町全体が活性化するのではないかと。

昔の話をしますけれども、先ほど言いましたとおり、大和町吉岡に集まって、吉岡

に来て、楽しみがあつてきたとかといろんなご意見、そういう年代、我々もそうだと思いますけれども、そういったことがありまして、申し上げたところでございます。

図書館機能ということで、それが前面になって、当然そうなんですけれども、多目的機能とも申し上げております。アンケート調査につきましては、第5次総合計画のアンケート調査でございまして、この間やったやつは。それについてのご意見を頂戴したところでございます。確かにあのときには、カフェとか、娯楽施設とか、そういったものが上位に来ておりました。これにつきましては、行政でなかなかできるものではないというものもあろうかと思つておるところでございますが、住民の皆様方が、そういったものを望んでおられるという意識は、考えは、大事にしなければいけないと思つております。

そういった意味で、図書館機能を持ったということで、今、図書館も以前のようにいわゆる本だけがあつて、そういう図書館というのももちろんあるわけでございますが、例えば、多賀城とか、岩手県とか、そういったところではカフェ機能とか、そういったものも、あるいは、集うといいますか、そういったこともやりながら人が集まる場所としてのイメージもあるところでございます。そういった意味合いも含めて図書館ということで申し上げておるところでございます。そのことを、図書館だけが表に出ると勉強するところだけがあつていいのかとか、そうなつてしまつてちょっと誤解されてしまうのかなというところもありますが、今の図書館というのは、そういった意味で、皆さんが集える場所ということも大きな要素になっておるところでございますので、そういったことも含めてこの図書館機能を持った多目的施設ということを私は申し上げておるところでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

商店街について、今確かにお店もどんどん閉まつてきております。そして、アパートが建つてきている状況で、アパートが建つことが悪いということではございませんけれども、商店街としても町並みといいますか、そういったものが残念ながら薄くなつてきている状況もあるのも事実だと思つております。今、大和町で商店街といいますか、そういった場所につきましては、もちろんこちらのスーパーとか、そういったところも一つあろうかと思つたけれども、やはり歴史を持った中での町並みというのは、これは吉岡の人ということではなくて、大和町の人にとつてもやっぱりあつてほしいものではないかという理解もしているところでございます。やり方については、非常に難しい部分があります。これは商工会の方々の状態もそのとおり、後継者の問題とか、そういったこともございますので、大変厳しいことであつて、これまでの活性化ということで町で総合計画をずっとやってきている中で、活性化がずっとあつたわけ

ですが、なかなか単発的にはできても継続的なものはできてこない、いない状況があります。そういったことで、やり方が悪いというご意見もあるということでございますが、そういったものについては、真摯に耳を傾けたいと思いますけれども、なかなか難しい状況といたしますか、ということは改めて言うまでもない中ではありますが、ぜひこういった形で、先ほど言いましたそういった施設、施設を造ればよいというものではもちろんないのですけれども、そういったものを一つの起爆剤としてといいますか、拠点として活性化につなげていければということでもあります。このことについては、当然、商店街の方、お店をやっている方はもちろんですけれども、お客さんの立場ということも考えていかなければいけませんので、いろんなご意見を聞いていかなければいけないと思っておりますが、ぜひこういった形での町としての私の思いというのは、それはもちろんそうですが、町としてもその活性化、地域の活性化、商店街の活性化という大きな課題に取り組んでまいりするための一つのやり方といいますか、方法として考えているところでございますので、皆様のご協力をぜひよろしくお願いしたいと思います。

議長（高平聡雄君）

佐々木久夫君。

3 番（佐々木久夫君）

それで、1 要旨目ということで、議長さんから指摘を受けましたが、1 要旨目については、にぎわいの創出事業について、ある程度理解したということでございますので、申し訳ございません。

それで、今、町長から、町長の思いや考えがまだはっきりとは分かりませんが、いずれにせよ何かの形で本当の話を聞きたいということにしたいなと思います。商工会においても商工会も店の商工会の会員じゃなくて、不動産の商工会の会員になってしまっているという状況でございますので、そこら辺も知っておいてほしいなと思っております。

それで、今後はということになりますけれども、先ほども言ったとおり、できるだけ早く進めてもらわないとなかなかおさら難くなるのかなと思います。初代、2 代、3 代目になってくるとうんと難くなるのかな、私の知っているあたりの3 代目なんですけれども、難しくなるんじゃないかと思っておりますので、これは早急に町はやっていただかないとにぎわいを取り戻すのがだんだんだんだん難しくなるのかなと思

ますので、町長、そこら辺、よろしく願いしまして、いろいろと話合いの場を若い人を含めてつくるというお話もありますので、ここら辺にしたいと思えますけれども、まず、それに続いて、皆関連しますので、3要旨目でございます。

それでは、吉岡の町がなかなか難しいとなれば、にぎわいをつくるのがうんと簡単なのは、新しいところにつくるのが一番簡単だと私は思いました。金もかからないということもあります。そういう意味合いで、中央商店街と連携していろんな形で結べば、吉岡西部ですか、新しいところに結べば、うんとつながりが出てくるのかなと思って、3要旨目をやらせていただいております。

それで、回答書を見ますと、流通関係が主だというような話です。たまたまこの間、地権者の方と地図というか、予定表を見てみましたら確かに流通が多かったんです。手前のほうに住宅団地があるということでありましたので、そこら辺、この道路をつながる、これは吉岡ですね。つながる道路をもう少し大きくしていただいて、そして、真っすぐ行ってにぎわうまちづくりをしてはどうかと、私の意見ですけれども、このことについて、答えは今後考えていくという話をいただきました。こういうことが、私どもも含めて大和町をいかにして盛り上げていくかというのを考えているから、この場でたださせていただいております。特に区画整理は今からということ、あそこに消防署が来るという予定をしているということでもありますので、なおさら流通もいいんですけれども、流通はさらに457号線を上のほうにカミのほうにやってもらえましょうと助かるなと思ってございますので、ここら辺も含めて町長の考え、区画、住宅と流通のほかさらに北のほうに、早めに埋まれば当然行くと思えますけれども、ここら辺の計画は頭の中に入っているかどうか、お聞きしたいと思います。

議 長 （高平聡雄君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

西部土地開発の件でございますが、今お話しいただいたとおり、私も申しましたけれども、流通を基本としてあります。ご存じと思いますが、以前に準備をした段階で流通団地というエリアを設けて、そして、エリアとすれば今回は新しくもできる、仙台大衡線から東側にしておりますが、西側の部分、そして、北側の部分も入れた中で大きな構想がございました。

それで、それについては、その時代の中で、難しいということで一旦ストップした

形になりまして、そして、今回改めてこのエリアを少し小さくしてといいますか、狭めた中で、今準備を進めておるところでございます。今、区画整理をするに当たりましては、なかなか規制等々も厳しいものがございますので、町でこうやりたい、こうしたいというものがすぐ通るものでもない、仙塩広域という全体の中で見ていくわけでございますので、一概にこうするというのではないのですけれども、大きな構想としては、全体の最初の構想というのは基本的にはあるものと思っております。ただ、それが次いつになるとか、そういったものは言える状況ではございませんので、今明確にこれをやりますということではないのですが、構想としては、そういうのがあったということでございます。したがって、北側もそういった構想の中には入っておったということになります。

それから、あくまで住宅団地も一部入っているわけでございますが、これにつきましても人口の関係とか、そういったものがありまして、やみくもにどんどん広げるといったものではないということでございますので、一定のそういった規制の中でできるだけ有利なものを取り込もうとして、今やっているところでございます。そういった状況での今の取組ということでございます。

あと、道路につきまして、ちょっとお話があったようでございますけれども、道路につきましては、当然言わば郵便局からの前の通りが丁字路になっているわけですが、あれを真っすぐずっと抜けて行って、仙台大衡線とぶつかるという道路になってまいりますし、今、予算でお願いしておりますけれども、落合線といいますか、この道路があそこは一部2車線、狭くなっているのが、今度幅を広くして4車線にしているということで、そういった循環をするということも、人の流れといいますか、車の流れといいますか、そういったものについての利便性といいますか、そういったものは上げるように準備をしているところでございます。

議 長 （高平聡雄君）

佐々木久夫君。

3 番 （佐々木久夫君）

分かりました。これからの両者の張りつきというか、そういうので決まってくるのかなと今感じております。なかなか仙塩地区の規制もあるというお話も聞きました。大変でありますけれども、頑張ってもらいたいと思います。

それで、今道路の話が最後に出ましたけれども、あそこのスタンドのところから同

じような幅でいくのか、それとももう少し大きい道路にするのか。というのは、自衛隊前のあの道路は、結構大きいんですね。4車線かな。それで、あそこにつながりはどうしてもあそこから先も4車線あたりでいかないと、4号なんて大衡線につながるのに非常に後からまた広げるような形ではまずいと私は思いますので、用地だけでも広めに取っておくのが必要かなと思ってございます。いずれにしろ、いろんな商店街の発展、そして、見ますと、やっぱり全て道路なんですね。道路がよければ当然来客、来る人も多くなるということでございますので、この区画事業については、もう少し大きな観点で設計していただければなと思ってございます。それには、やっぱり地権者の方々、できるだけ早く売りたいというのが地権者だと思いますので、しかしながら、公共公園とかも当然必要だと思います。そういうのを頭に、当然設計の段階でしっかりしていただきたいと思います。

できれば商店街をあそこら辺に持って行って、何とかにぎわい、できれば野外ステージなんかを造っていただくような、人が集まるところがあれば物すごく大和町が見直されるというか、そういうところがないものですから、次に何かやればステージを、仮設を造るというような形になりますので、ぜひいつでもイベントができるような、郊外イベントができるような計画をしていただきたいなと要望を出したいと思います。

いずれにしろ、我々議員は、大和町の発展を、児玉議員も言いましたとおり、願っているわけですから、そこら辺には、やっぱり町長のカラー、強いカラーがどうしても必要だと私は思います。それで、もう6期、7期目に向かっているわけですから、ここら辺をはっきり示してほしいと思いますので、ここら辺でもう一度町長の、大和町はもちろんですけれども、いろんな面で将来像に向かって町長、強い意志、答弁お願いします。それで終わりたいと思いますので。

議 長 （高平聡雄君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

私の個人のことはあれですが、町の大事なことというのは、おっしゃるとおりだと思っております。そういったことで、町をよくするために取り組んでいるところでございますが、さらにスピードアップをしながら、住民の皆様方が期待するようなまちづくりにしっかり取り組んでまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

議 長 (高平聡雄君)
佐々木久夫君。

3 番 (佐々木久夫君)

これで、一般質問は終わらせていただきますけれども、足りない分は、さらに次回の一般質問にさらに質問したいと思いますので、できるだけ早く対処していただきたいと思います。これで、私からの質問は終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

議 長 (高平聡雄君)

以上で佐々木久夫君の一般質問を終わります。

お諮りします。

本日はこの程度にとどめ、延会したいと思います。これにご異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

異議なしと認めます。よって本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

再開は、3月4日の午前10時です。

大変ご苦労さまでございました。

午前11時46分 延 会